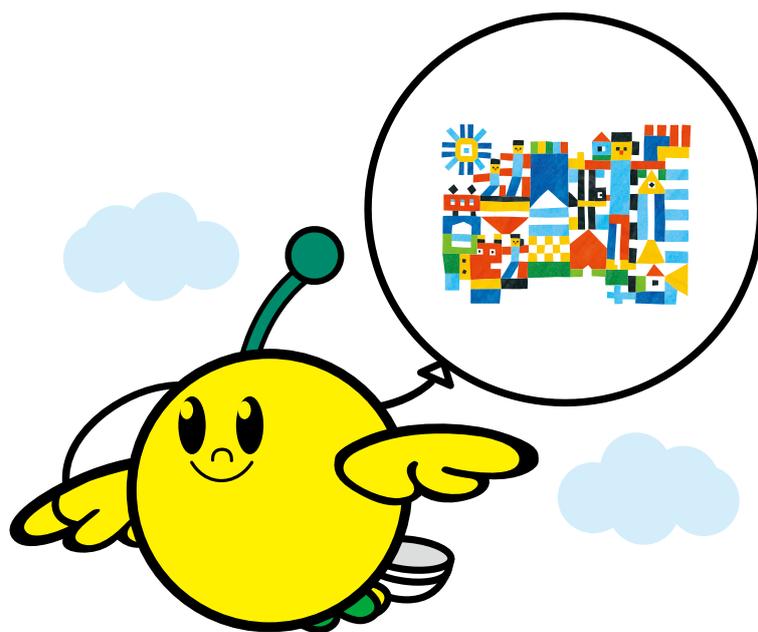


福島県東日本大震災子ども支援基金

事業報告書



福島県復興シンボルキャラクター
キビタン

福島県
〔令和5年度版〕

ご あ い さ つ



平成23年3月の東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所事故から12年余が経過しました。

この間、国内外の多くの皆様から様々な御支援をいただいていることに対し、心から感謝申し上げます。

震災と原発事故からの復興に取り組む福島県では、帰還困難区域において初となる避難指示解除が実現するなど、福島の復興は新たな段階に向けた大きな一歩を踏み出しました。また、JR只見線が豪雨災害を乗り越えて11年振りに全線で運行を開始したほか、県産品の輸出額が過去最高を記録し、県内への移住者数や新規就農者数も過去最多を更新するなど、これまで続けてきた挑戦が目に見える形となって現れています。一方で、未曾有の複合災害からの復興・再生、廃炉と汚染水・処理水対策、風評と風化の問題、急激に進む人口減少、頻発する自然災害からの復旧、さらには原油価格・物価高騰への対応など、本県はいまだ多くの困難な課題を抱えています。

こうした中、被災した子どもたちを長期的、継続的に支援するため、国内外の皆様からお寄せいただいた「東日本大震災ふくしまこども寄附金」を活用し、保護者が死亡したり行方不明となった児童（遺児・孤児）に対する支援に加えて、本県の子どもたちが、様々な困難を乗り越え、心身ともに健やかに育つための施策に活用させていただいております。

本県に心を寄せてくださる全ての方々と力を合わせて、ふくしまの明るい未来を切り拓いてまいりますので、今後とも御理解と御支援をお願いいたします。

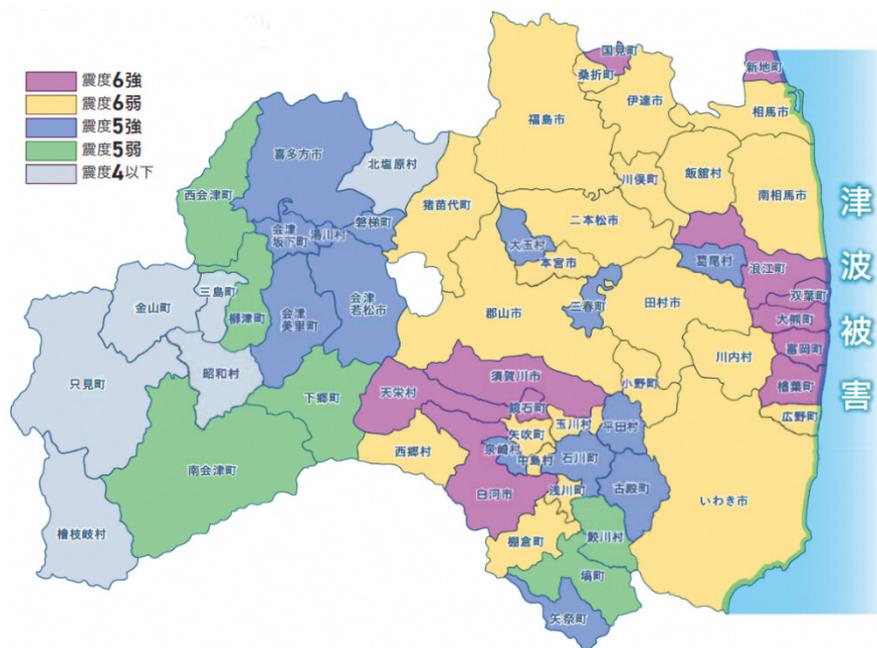
令和5年9月

福島県知事 内堀 雅雄

福島県の発災当時の被害状況と現在

平成23年3月11日14:46に三陸沖を震源として発生した「平成23年 東北地方太平洋沖地震」(東日本大震災)は、マグニチュード9.0を記録し、観測史上最大の地震でした。

福島県では最大震度6強を記録し、激しい揺れとともに、広い範囲で大津波が押し寄せました。東京電力福島第一原子力発電所でも事故が発生し、未曾有の複合災害となりました。



地震や津波等により多くの尊い命が失われ、10万棟近くの住家が全半壊しました。また、原子力災害の影響で県土の1割を超える区域に避難指示等が発出され、多くの県民がふるさとを離れての生活を余儀なくされました。

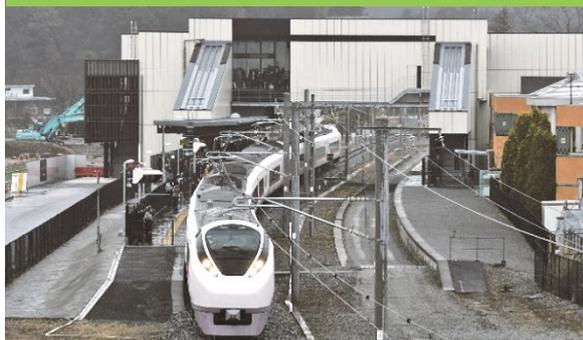
震災から12年余が経過した今、公共土木施設の復旧や避難指示の解除が進むなど、本県の復興は着実に進展しています。一方で、いまだに約2万7千人の方々が生計を失った生活を続けておられるほか、被災者の生活再建、根強く残る風評と風化の問題など、多くの課題を抱えています。



復旧・復興事業の様子
(大熊町大川原地区)



全線復旧したJR常磐線



開通した相馬福島道路



福島水素エネルギー研究フィールド（浪江町）



福島ロボットテストフィールド（南相馬市）



出典：NEDO

「東日本大震災ふくしまこども寄附金」について

東日本大震災では、多くの子どもたちが親を失いました。加えて、原子力災害により、住み慣れた土地から長期間離れなければならない子どもたちも多く、様々な喪失体験によって、心に大きな負担がかかっています。

こうした中、福島県では、平成23年8月から東日本大震災による震災孤児等への支援のための寄附口座「東日本大震災ふくしまこども寄附金」を開設しています。

これまで、国内外の皆様からあたたかいご寄附をお寄せいただき、多くの子どもたちが夢に向かってはばたくことができました。これからも、子どもたちが震災前に抱いていたそれぞれの夢をあきらめることなく、着実に前に進んでいくことができるよう、大切に有効に活用させていただきたいと考えています。

○ 寄附の状況（令和5年3月31日現在）

寄附件数 20,765件 寄附額 7,305,504,976円

○ 被災孤児、遺児（令和5年3月31日現在）

- ・ 孤児：24人（孤児：両親若しくは単親の場合、現に養育していた親が死亡又は行方不明となった児童）
- ・ 遺児：180人（遺児：両親のうちいずれかが死亡又は行方不明となった児童）

「東日本大震災ふくしま子ども寄附金」を活用した事業について

1 福島県東日本大震災子ども支援基金給付金

福島県東日本大震災子ども支援基金条例を制定し、東日本大震災ふくしま子ども寄附金を基金に積み立て、東日本大震災により、保護者が死亡又は行方不明となった児童（孤児・遺児）に対して、生活及び修学を支援するための給付金を給付する事業を実施しています。

1 対象者 東日本大震災により保護者が死亡し又は行方不明となった児童

2 給付期間 大学等卒業までの期間

3 給付金の種類及び金額

(1) 月額金

ア 未就学児童	月額（孤児：30,000円、遺児：20,000円）
イ 小・中学校に在籍する者	月額（孤児：40,000円、遺児：30,000円）
ウ 高等学校等に在籍する者	月額（孤児：50,000円、遺児：40,000円）
エ 大学及び専門学校等に在籍する者	月額（孤児：60,000円、遺児：50,000円）

(2) 一時金

ア 小学校入学時給付金	30,000円
イ 小学校卒業時給付金	50,000円
ウ 中学校卒業時給付金	100,000円
エ 高等学校卒業時給付金	300,000円

4 給付実績（令和5年3月31日現在）

給付実人員 199人 総給付額 749,460,000円

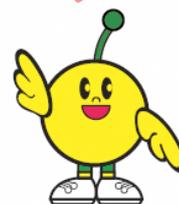
2 「ふくしま子ども寄附金」による新たな支援について

平成24年12月県議会において福島県東日本大震災子ども支援基金条例の改正が議決され、震災孤児・遺児の支援に加えて、支援の対象を県内全域の子どもたちへと拡大し、下記の5つの視点から新たな支援を行っています。

【新たな支援の5つの視点】

- ① 災害・避難等により不便を強いられている子どもへの支援
- ② 子どもたちの将来につながる取組
- ③ 子どもたち及び保護者が元気になる取組
- ④ 子どもたちのふるさと福島への愛着心を醸成する取組
- ⑤ 子どもたちの本県復興への参画

次ページ以降で
一部紹介します





ジャーナリストスクール開催事業

1 事業概要

未来を担う子どもたちが、ふるさと「ふくしま」において、復旧・復興に取り組んでいる個人や団体に対して取材し、新聞としてまとめ、発信することにより、自分たちの住む「ふくしま」の良さを知るとともに、将来の夢や希望を深く考える機会を設けました。

2 事業実施時期及び参加者数

実施時期：令和4年7月28日（木）、30日（土）、31日（日）、8月11日（木）

参加者数：小学生17名、中学生10名、高校生4名、

OB・OG6名、新聞発表会参観者 保護者89名

3 事業実施による効果

子どもたちに、復興に取り組む被災者等と直接的に関わる機会を提供し、自ら学び、考え、自分の言葉で発信する体験をさせることで、改めて震災と向き合い、復興に向かって踏みだそうとする自主性を支援することができました。

また、子どもたちが作成した新聞を県内外の避難者の方々や県内の各学校に配布することにより、復興に向かって取り組む方々の姿や同年代の子どもたちの活躍を知らせるとともに、ふるさと「ふくしま」の現状や復興の取組を認識したり、福島の未来を考えたりする機会を提供することができました。



4 お問い合わせ先

福島県文化スポーツ局 生涯学習課（TEL：024-521-7784）

東日本大震災・原子力災害伝承館学習活動支援事業

1 事業概要

震災と原発事故の記録や教訓を地域や世代を超えて継承する施設として令和2年9月に開館した東日本大震災・原子力災害伝承館を学習活動に活用するため、県内外の小中学校及び高等学校の児童・生徒が学習活動で訪問する際の費用の補助等を行いました。

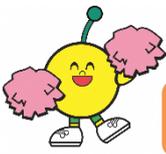


2 利用学校数

313校（18,277名）

3 お問い合わせ先

福島県文化スポーツ局 生涯学習課（TEL：024-521-7404）



アートで広げる子どもの未来プロジェクト

1 事業概要

福島の未来を担う子どもたちに将来「新生ふくしま」を推進する人材として活躍してもらうため、県内の小中学校等に、県内外で活躍するアーティストを講師に招き、多彩なアートプログラムを体験できるワークショップを開催しました。



2 事業実施回数及び総参加者数

実施回数：計21回 総参加者数：432名

3 事業実施による効果

美術作家を講師として招き、交流しながら一緒に制作を楽しむことで、いつもとは違う「つくる喜び」を体験し、子どもたちの創造性を育むことができました。

「福島」をテーマとしたワークショップでは、子どもたちが身近な自然や風景を学ぶきっかけにすることができました。

4 お問い合わせ先

福島県文化スポーツ局 文化振興課 (TEL: 024-521-7154)

ふくしま「若者 × メディア芸術 × デジタル」推進事業

1 事業概要

県内の青少年を対象にデジタル技術を活用したメディア芸術作品を募集し、展覧会を開催しました。また、タブレットを用いて作品制作を行うワークショップを開催しました。

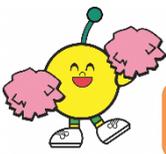
2 事業実施による効果

子どもたちの創作意欲を刺激し、自己表現力や、他者の表現を感じる力の育成が図られました。また、作品が審査員に評価されることで子どもたちの自信にも繋がりました。

3 お問い合わせ先

福島県文化スポーツ局 文化振興課 (TEL: 024-521-7154)





ふくしまの未来をひらく読書の力 プロジェクト

1 事業概要

中高校生を対象にしたビブリオバトル（お勧めの本を紹介しあう書評合戦）福島県大会を通して、広く県民に対し子どもの読書活動についての理解の促進のための普及活動・啓発活動を実施しました。



2 事業実施時期及び参加者数

県大会	令和4年12月3日（土）	中学生10名、高校生5名 観戦者118名
浜通り地区予選会	令和4年10月1日（土）	高校生19名 観戦者123名
中通り地区予選会	令和4年9月4日（日）	高校生14名 観戦者59名
会津地区予選会	令和4年10月1日（土）	高校生13名 観戦者77名

3 事業実施による効果

ビブリオバトルを通じて中高校生の読書活動への関心が高まっただけでなく、情報発信能力の育成・向上が図られました。

4 お問い合わせ先

福島県教育庁 社会教育課（TEL：024-521-7799）

ふくしまを十七字で奏でよう絆ふれあい支援事業

1 事業概要

家庭や地域における、人と人とのかかわりの中で感じた思いや願いなどを十七音で表現した作品を募り、子どもたちの豊かな心を育成するとともに、人と人との「絆」を強め、家庭や地域の教育力の向上を図りました。



2 応募総数

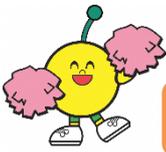
42,635組（85,270名）

3 事業実施による効果

親子で作品をつくるなど、人と人との「絆」を強め、家庭や地域の教育力の向上を図ることができました。また、県内外からふくしまへの想いや震災体験等を詠んだ作品を募集することで、震災の記憶の継承と復興に向けた想いを共有する機会となりました。

4 お問い合わせ先

福島県教育庁 社会教育課（TEL：024-521-7799）



輝け未来へ！スマイルスポーツ教室 in ふくしま

1 事業概要

オリンピック・パラリンピック競技をはじめとした関心度の高い種目の選手を招き、親子一緒にスポーツを楽しみながら、トップアスリートの技能を見たり、経験談を聞いたりできる教室を開催しました。

2 事業実施時期及び参加者数

スカイスports教室：令和4年5月22日（日） 参加者数73組

バドミントン・車いすバドミントン教室：令和4年9月4日（日） 参加者数40人

スポーツクライミング教室：令和4年12月4日（日） 参加者数48人

3 事業実施による効果

国内外で活躍する講師との触れ合いを通して、スポーツの楽しさを体感させるとともに、子どもたち自身の将来の自分づくりに向けた夢や希望を育むことができました。

4 お問い合わせ先

福島県文化スポーツ局 スポーツ課（TEL：024-521-7995）



eスポーツを活用したICT人材育成

1 事業概要

高校生にとって親しみやすいeスポーツをきっかけとしてプログラミングの基礎を学び、学んだ技術を活用してゲーム作成を行う体験講座を実施しました。

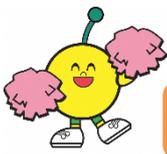
2 事業実施による効果

参加した生徒たちの多くがロボットシミュレーターに興味を示すなど、ICTの技能・知識の習得に向け大きな動機付けができました。ICT先進地である会津をはじめとした県内で活躍するデジタル人材の育成が図られました。



3 お問い合わせ先

福島県企画調整部 地域振興課（TEL：024-521-7102）



JFA と連携した人材育成事業

1 事業概要

福島県立ふたば未来学園高等学校サッカー部へ指導者を派遣し指導にあたることで、JFA アカデミー卒校生を始めとする、県内の有望選手の受け皿を創出し、ユース年代の育成環境の整備を行いました。

また、県内の子どもたちの健康増進やけが防止の取組を行うとともに、県内外のチームや学校、選手や指導者とサッカーを通じて交流を深めることで、県内の子どもたちの健全育成と広い視野を持った人材の育成を図りました。

2 お問い合わせ先

福島県企画調整部 地域振興課（TEL：024-521-7102）



子どもの夢を応援する「ダイヤの原石発掘トライアウト」

1 事業概要

国内最高レベルの天然芝ピッチを有し、復興のシンボルとして再開を果たしたJヴィレッジにおいて、海外サッカークラブと連携して次の4つの事業を行いました。

- ① プロのスカウトにより15歳以下の優秀な選手を発掘するセレクションイベント
- ② 小学生向けサッカー教室
- ③ 「2022 サマーキャンプ」への元Jリーガー派遣
- ④ 「Jヴィレッジカップ」へのプロの育成スタッフ派遣

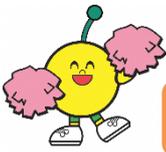


2 事業実施による効果

セレクションイベントにより2名の優秀選手がベルギーのプロチームの下部組織の練習に参加することができました。このことに同年代の他の子どもたちも刺激を受け、夢に向かって努力することを意識する機会となりました。

3 お問い合わせ先

福島県企画調整部 エネルギー課（TEL：024-521-7116）



体力向上ムーブメント事業

1 事業概要

東日本大震災後に屋外活動制限を受けた県内の児童生徒の体力低下傾向の改善や、肥満傾向児出現率縮減を図り、手軽に短時間でできるなわとびを通して児童生徒の日常的な運動機会を創出しました。



2 実施規模

県内公立小・中・義務教育学校 158校

参加児童生徒数 3,856名

3 事業実施による効果

子どもたちが互いに支え合い、楽しみながらなわとびに取り組む様子が見られました。

4 お問い合わせ先

福島県教育庁 健康教育課（TEL：024-521-8409）

元気なふくしまっ子食環境整備事業

1 事業概要

小中学生を対象に地元の農水産物を活用した料理コンテストを開催しました。入賞したレシピについては広く県民に発信し、子どもたちの料理への関心を高めるとともに、地元の食材に対する理解を深めました。

2 料理コンテストの応募点数及び親子料理教室参加者数

応募点数：18,087点 参加者数：10名（4組）

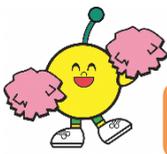
3 事業実施による効果

食事作りを通して、料理への関心を高め、日本食や地域の風土を理解し、ふるさとへの郷土心を育むことができました。

また、入賞作品のレシピを掲載したチラシを県内のスーパーの店頭や地場産物販売コーナー等に設置し、県民に広く情報を発信することで、望ましい食習慣の形成の一助となりました。

4 お問い合わせ先

福島県教育庁 健康教育課（TEL：024-521-8409）



子ども・若者“地産地消”プロデュース事業

1 事業概要

県内の子どもたちが、地域住民の協力を得ながら、ワークショップ等を通して地域資源について学ぶとともに、PR方法や食材としての活用方法を考えました。また、物産展に参加し、伝統野菜のPR等を実施しました。

2 事業実施時期及び参加者数

実施時期：令和4年6月～令和5年3月 参加者数：延べ315名

3 事業実施による効果

地産地消への理解やふくしまへの愛着心の醸成につながりました。

4 お問い合わせ先

福島県企画調整部 地域振興課（TEL：024-521-7118）

“医療の仕事”魅力発信事業

1 事業概要

小学生から高校生を対象に、実際に医療の現場で働く看護職による授業や、一日看護等体験、オンライン医療教室を開催することで、医療職の魅力を伝える機会を創出しました。



2 総参加者数

対面授業 1,311名（小学生250名、中学生458名、高校生603名）

一日看護等体験 50名（高校生50名）※新型コロナの影響によりオンライン開催

オンライン教室 15名（小学生4名、中学生11名）

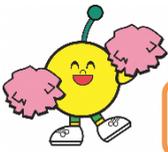
3 事業実施による効果

看護職が講師として児童・生徒に授業を行うことで、生命や性に関すること、キャリア形成、看護の仕事等への理解を促すことができました。

また、動画コンテンツ等を掲載したポータルサイト上で小・中学生向けに医療職種の魅力情報を発信し、医療職種への興味・関心を高めてもらうことができました。

4 お問い合わせ先

福島県保健福祉部 医療人材対策室（TEL：024-521-7222）



夢に向かってテクノチャレンジ事業

1 事業概要

震災から立ち上がり、自信と向上心をもって生きることができる生徒の育成を目指し、特別支援学校高等部で取り組んでいる進路に関する学習について、すべての特別支援学校の生徒が一堂に会して学習の成果を発表し、外部専門家からの客観的な評価を受ける機会を設けて、生徒の自立と社会参加につながる知識や技術の向上を図りました。

2 総参加者数

県内特別支援学校高等部生徒 123名

3 事業実施による効果

外部の専門家から評価を受けることで、進路実現に向けての自信につながりました。また、実際に来場した企業等の障害者雇用への理解が深まり、生徒の卒業生に占める就職率の向上につながるなど、地域で自信をもって働く生徒が増えてきました。



4 お問い合わせ先

福島県教育庁 特別支援教育課（TEL：024-521-7780）

専門高校生による小中学生体験学習応援事業

1 事業概要

小中学生が専門高校を訪問し、取り組んでいる学習内容について体験しました。その際、高校生が実技指導の講師を行い、児童生徒のキャリア教育の推進を図りました。

2 総参加者数

小学生495名、中学生439名、高校生823名

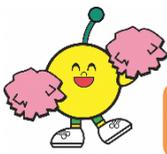
3 事業実施による効果

小中学生にとっては、専門高校の学習活動への理解を深め、進学への意欲を高めることができ、高校生にとっては、自分たちが学んだことを十分に振り返る機会となりました。



4 お問い合わせ先

福島県教育庁 高校教育課
（TEL：024-521-7773）



工業人材スキルアップ応援事業

1 事業概要

工業高校において実施されている、ロボット製作を通じたものづくり教育について、地域企業や大学等と連携し先進技術の指導を受けることで、課題解決の力を身につけるとともに、知識・技術の高度化とものづくりの意識向上を図りました。



2 事業実施による効果

先進的な素材や先端的な技術について学ぶことで、生徒の豊かな想像力とものづくり力を育むことができました。

また、ものづくりへの意欲向上が図られるとともに、連携した企業等への理解を深めることで、福島県の産業や復興を支える人材育成につながりました。

3 お問い合わせ先

福島県教育庁 高校教育課（TEL：024-521-7773）

理数コンテスト事業

1 事業概要

イノベーション・コースト構想等の大規模プロジェクトを担うトップリーダー（理数系の人材）を育成するため、次の4つの事業を実施しました。

- ① 福島県算数・数学ジュニアオリンピック（算数・数学コンテスト）
- ② 科学の甲子園ジュニア福島県大会（理科コンテスト）
- ③ 未来を担うトップリーダー！先端技術体験
- ④ 「科学の甲子園」福島県大会

2 事業実施時期

- ① 令和4年10月23日（日）
- ② 令和4年 8月18日（木）
- ③ 令和4年12月18日（日）
- ④ 令和4年11月13日（日）

3 事業実施による効果

コンテストや大会を通じて、児童生徒の理数系科目への興味や関心を高めるとともに、課題解決に向かうことの大切さや困難を乗り越える達成感等を味わうことができました。

また、先端技術体験をとおして、東日本大震災について理解を深め、福島県のために役に立ちたいという意識を高めつつ、トップリーダーとしての意識を育むことができました。

4 お問い合わせ先

福島県教育庁 義務教育課（TEL：024-521-7774）
高校教育課（TEL：024-521-7773）



地域との協働による高等学校教育改革推進事業

1 事業概要

福島県立ふたば未来学園中学校・高等学校の高校生を対象に、原子力災害からの復興と新たな地域社会の創造をテーマとした探究活動を行いました。また、ニューヨーク現地において、有識者・行政職員との意見交換や各国から集った同世代の生徒との交流を実施しました。



2 事業実施時期及び参加者数

実施時期：令和5年3月10日（金）～3月18日（土） 参加者数：高校生8名

3 事業実施による効果

探究活動を通して、福島や世界の諸問題についての理解を深めることができました。また、英語でのコミュニケーションやディベート等を通して、実践的な英語力の重要性を認識し、今後の英語学習への強い動機付けを得ることができました。

4 お問い合わせ先 福島県教育庁 高校教育課（TEL：024-521-7773）

喜多方高等学校海外研修

1 事業概要

喜多方高校において、喜多方市の姉妹都市である米国オレゴン州ウィルソンビル市への短期研修を実施し、国際交流に関する理解を深めるとともに、地域の魅力を発信する活動を行いました。

2 参加者数

海外研修：10名 研修報告会：生徒297名 保護者・喜多方市関係者7名

3 事業実施による効果

米国の生活や習慣、文化等への理解を深めるとともに、現地の高校生との交流を通じて自己の在り方に思いを巡らせることができました。また、地域に対する愛着心の醸成にもつながりました。

4 お問い合わせ先 福島県教育庁 県立高校改革室（TEL：024-521-7843）

只見線を活用した学びの場支援事業

1 事業概要

県内の小学校及び特別支援学校に通う子どもたちを対象として、只見線の列車内や沿線地域において、奥会津地域のインフラ・暮らし・農業・食などの多様な教育資源を活用し、特色ある体験学習を実施しました。

2 お問い合わせ先 福島県 只見線管理事務所（TEL：0242-93-5155）



子育て世代包括支援センター機能充実事業

1 事業概要

県内の市町村が運営する、妊娠期から子育て期まで切れ目のない支援を行う子育て世代包括支援センターにおいて、全妊婦を対象に育児物品の配布や妊婦訪問等を通して、支援が必要な家庭の早期把握・早期支援を行いました。

2 お問い合わせ先

福島県子ども未来局 子育て支援課（TEL：024-521-8205）

子どもを守る情報モラル向上支援事業

1 事業概要

学校や家庭におけるこどもの適切なインターネット利用を促進するため、「ふくしま情報モラル診断」システムを開発しました。（令和5年4月運用開始）



2 対象

小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校

726校 約183,600人

3 お問い合わせ先

福島県子ども未来局 子ども・青少年政策課（TEL：024-521-7187）

子どもを守ろう！見守りサポーター養成事業

1 事業概要

CAP（Child Assault Prevention 子どもへの暴力防止）プログラムを活用して、子どもが虐待等の様々な暴力から自分の身を守れるよう、啓発を行いました。

2 事業実施による効果

子どもへの効果として、自分の権利について認識し、虐待等の危険な状況を回避するスキルを身につけることができました。また、相談の大切さについて認識し、孤立化を防ぐことができました。

大人への効果としては、子どもの権利や大人の暴力等で傷つく子どもの心の状態を学ぶことで、大人側の言動を振り返り、虐待を防ぐ意識を醸成する機会となりました。

3 お問い合わせ先

福島県子ども未来局 児童家庭課（TEL：024-521-8665）

寄附をくださった皆様へのメッセージ

給付金をお届けしている児童・生徒や保護者の方々から、寄附をくださった方へ寄せられたメッセージをご紹介します。

◆寄附をくださった方へのメッセージ◆

寄附をくださった方へ伝えたいことを自由に書いてください。
(いただいた内容は県ホームページなどへのせることがあります。)

震災の年に生まれた子が、
12才になりました。震災のことは、
学校で習ったし、3月11日近くの
報道で目にしよから知っていて
います。どんな風に感じよから
成長していくのか、見守っています。
すよと心を寄せてくださり、ありがとう
ございます。

学校 小学校・中学校・高校・その他(保護者))
学年 6 年生 ※お名前を書く必要はありません。

◆寄附をくださった方へのメッセージ◆

寄附をくださった方へ伝えたいことを自由に書いてください。
(いただいた内容は県ホームページなどへのせることがあります。)

いつもご支援いただきまして
ありがとうございます。
皆様のおかげでとても良い学生生活
を送りよることができております。
本当にいろいろなところから御着附
をいただいていることに大変感謝
しております。
感謝の気持ちを忘れずに
これからも頑張っています。

学校 小学校・中学校・高校・その他)
学年 2 年生 ※お名前を書く必要はありません。

◆寄附をくださった方へのメッセージ◆

寄附をくださった方へ伝えたいことを自由に書いてください。
(いただいた内容は県ホームページなどへのせることがあります。)

震災から 12年、この春無事に高校
を卒業することができました。
当時小学1年生でしたが、学校
生活を楽しく充実した時間を
過ごすことができました。
みなさまの長期間のご支援、本当に
ありがとうございます。

学校 小学校・中学校・高校・その他)
学年 _____ 年生 ※お名前を書く必要はありません。

◆寄附をくださった方へのメッセージ◆

寄附をくださった方へ伝えたいことを自由に書いてください。
(いただいた内容は県ホームページなどへのせることがあります。)

いつもご支援いただき心から感謝して
います。私は短期大学に入学してまもなく
2ヶ月がたちます。経営学について勉強を
しています。初めての学よがよからとても
楽しいです。友達も出来、よくご飯を
食よに行きます。こうして充実した毎日
を過ごすよから出来ているのは、皆様の
おかげです。本当にありがとうございます。

学校 小学校・中学校・高校・その他(短期大学))
学年 1 年生 ※お名前を書く必要はありません。

寄附をくださった皆様へのメッセージ

◆寄附をくださった方へのメッセージ◆

寄附をくださった方へ伝えたいことを自由に書いてください。
(いただいた内容は県ホームページなどへのせることがあります。)

いつもご支援をありがとうございます。
私は東日本大震災で父を失い、母との2人暮らしをしていました。生活が厳しかったため、大学への進学は難しいと思っていました。しかし、「東日本大震災子ども支援基金給付金」をいただけることになり、無事に大学への進学を果たすことができました。
今は他の奨学金と併用しながら、大学生活を送っています。
アルバイトもはじめて1人で独立し、立派な大人になれるよう、これからも勉学に励みながら頑張ります。

学校 小学校・中学校・高校・その他(大学生)
学年 1年生 ※お名前を書く必要はありません。

◆寄附をくださった方へのメッセージ◆

寄附をくださった方へ伝えたいことを自由に書いてください。
(いただいた内容は県ホームページなどへのせることがあります。)

今年の3月に高校を卒業しました。
3年間、コロナという目に見えないウイルスとの戦いでした。
僕の夢は、理学療法士になることです。念願の医療福祉大学に合格できました。4月からひとり暮らしの新生活をしはがら大学へ通っています。
多くの人に支えられながらここまで来ることができました。
いつもありがとうございます。
夢に向かって4年間、頑張ります。

学校 小学校・中学校・高校・その他(大学)
学年 / 年生 ※お名前を書く必要はありません。

◆寄附をくださった方へのメッセージ◆

寄附をくださった方へ伝えたいことを自由に書いてください。
(いただいた内容は県ホームページなどへのせることがあります。)

いつも温かいご支援をいただき、ありがとうございます。
息子は、今年度大学4年生になりました。いよいよ社会人への道を切り開いていくようになります。皆様のご支援のおかげと感謝しております。

学校 小学校・中学校・高校・その他(大学生)
学年 4年生 ※お名前を書く必要はありません。 母

◆寄附をくださった方へのメッセージ◆

寄附をくださった方へ伝えたいことを自由に書いてください。
(いただいた内容は県ホームページなどへのせることがあります。)

支援者の皆様のおかげで今年3月に無事に大学を卒業する事ができました。
主人亡くなった時は、今後子供たちを育て行く事で、精一杯他の子供たちと同じ様にと思いついて来ました。これも、皆様から寄せられた寄附金のおかげです。
4月から地域の総合病院の作業療法士として働いています。
今後は、支援する立場になる様に本日も頑張りたいと話しています。
これまで、本当にありがとうございました。 母

学校 小学校・中学校・高校・その他(大学)
学年 年生 ※お名前を書く必要はありません。

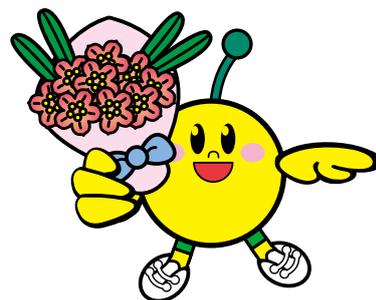
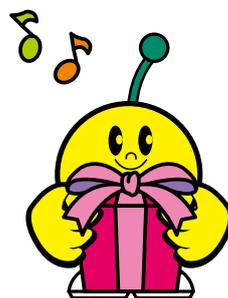
寄附をくださった皆様へのメッセージ

◆寄附をくださった方へのメッセージ◆

寄附をくださった方へ伝えたいことを自由に書いてください。
(いただいた内容は県ホームページなどへのせることがあります。)

お世話になっております。
皆様のご支援により、安心して
学生生活を送ることができて
おります。
感謝申し上げます。

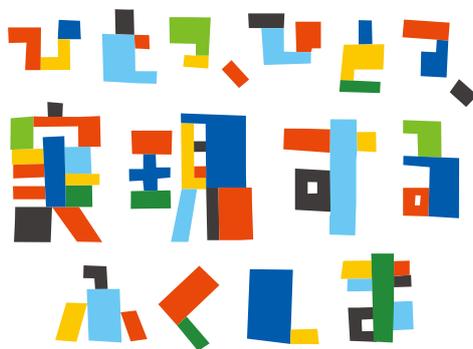
学校 小学校・中学校・高校・その他()
学年 年生 ※お名前を書く必要はありません。



寄附をくださった皆様から福島の子どもたちへのメッセージ

国内外の寄附者の方々から、福島の子どもたちへ、たくさんのメッセージを寄せていただいています。その中から、一部をご紹介します。

- 毎回少額ですが、いつも応援しています。たくさん勉強して、たくさん遊んで、素敵な大人になってください。 (山口県)
- 「将来のあなたの夢は何ですか？」その実現に向けて少しずつ前に進んでください。大人たちは、応援しています。 (福島県)
- 皆さんの元気に成長している姿に安心するとともに、力をいただいております。わたしができることはほんのささやかなものですが、ずっと応援していきます。皆さんには明るい未来がきっとあります。これからも目標に向けてがんばってください。 (東京都)
- 震災が起こったあの日から12年。私たちは今13歳です。東日本大震災が起こった日のことを何も知りません。突然、大切な人を失った悲しみや恐ろしさの言葉では表せない程の苦しみはどう頑張っても想像できないと思います。震災の映像などを見て、とても心が苦しくなります。東日本大震災のことを学び、復興に向け頑張っているみなさんの支えに少しでもなればと思い、募金活動をさせていただきました。少しでも復興のお力になれたらなによりです。みなさんが安心して自分の大好きな街で暮らせるその日まで、私たちは応援し続けます。生徒会長より (大阪府)



令和5年9月発行

福島県 こども未来局 こども・青少年政策課

〒960-8670 福島市杉妻町2番16号

電話：024-521-7198

E-mail:kodomoseisaku@pref.fukushima.lg.jp

福島県庁ホームページ

[ふくしまこども寄附金](#)

[検索](#)